

●冬の公園を歩くと、新しい発見があるかも!?

冬になると渡り鳥や漂鳥などが多く確認できます。特に、御所沼やハス池にはたくさんの水鳥が飛来します。バードウォッチングでもしながら、てくてく散歩してみてもいいでしょうか。

○じつはツルの仲間、オオバン

■利用者の方に「あの鳥は何ていう名前ですか？」と一番よく質問される鳥です。水面に浮かんでいることが多い印象ですが、この公園では陸上の食べ物をついばむ姿もよく観察できます。ツル目クイナ科の鳥で、



①オオバン

雑食のわりに植物を好んで食べます。ツルの仲間らしく、カモと比べると足が長くしっかりしていて歩くのも上手です。また、陸上で歩く後ろ姿が丸っこくてかわいらしいですよ。



○小さいカモだからコガモ(小鴨)

■全長 38cm の小型のカモです。漢字で書くと小鴨。日本に渡ってくる時はオスとメスは似たような見た目ですが、求愛の時期になるとオスは美しい見た目に変化します。越冬地であまりいなくなって、繁殖地ですぐに産卵するそうです。



②コガモ

○カモといったらマガモ

■カモといえばこの鳥。水辺の植物や木の実を食べます。園内でも森の中や芝生の上など地面をつついて見ることが出来ます。生息域が人間と重なっているため、古くから狩猟の対象となってきました。そのため野生のマガモは逃げ足が速いことが知られています。ちなみにマガモを家禽(かきん)化したものがアヒルです。



③マガモ

○モズ(百舌)の変わった習性は繁殖のため、声を美しくするための栄養食

■全長 20cm の鳥で、その名の通り、他の鳥の鳴き真似をします。また、とがった小枝や有刺鉄線のトゲなどにバッタやカエルなどを串刺しにする変わった習性を持ちます。この習性を日本では「モズのはやにえ」と呼んでいます。この残酷な習性から、イギリスでは「屠殺人(とさつにん)の鳥」、ドイツでは「絞め殺す天使」と呼ばれています。日本でも、江戸時代には、「モズの鳴く夜は死人が出る」とまで言われていました。ちょっと気の毒ですね…。この「はやにえ」について、最近の研究で明らかになったのですが、モズのオスは非繁殖期にのみはやにえを行い、そのほとんどを繁殖期が始まるまでに食べ尽くし、繁殖の歌声の質を高める栄養にしているそうです。



⑤モズ



○冬は口をつぐんでいるからツグミ

■全長 24cm の冬鳥で、秋ごろになるとシベリアから日本の積雪のない地方にやってきます。雑食性の鳥で、足をそろえてぴょんぴょんと飛び跳ね、胸を張る独特のポーズで、昆虫や木の実などを探しまわっています。冬のあいだは鳴かず、口をつぐんでいるのでツグミといい、冬が終わり、北へ帰る頃になると、「クイックイック」、「キュッキュック」としきりに鳴き始めます。



④ツグミ

●冬の公園にも生き物がいっぱい。暖かくして散歩を楽しんでくださいね!

【発行】(一財)古河市地域振興公社 古河公方公園(古河総合公園) 〒306-0041 茨城県古河市鴻巣399-1 電話0280-47-1129

○てくてく情報は公式ホームページからもダウンロードできます。

古河公方公園

検索